

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 乗用車価格の上昇によりコアが予想以上に上昇 (06年1月生産者物価)

発表日：06年2月17日(金)

～目先、川上からのインフレ圧力は徐々に弱まる公算～

(No. UI-203)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	最終財		生産者物価 (Producer Price Indexes)				中間財		原材料		<参考>	
	コア	エネルギー	コア	エネルギー	コア	エネルギー	コア	エネルギー	コア	エネルギー	輸入物価	WTI
05/01	+0.1	(+4.1)	+0.6	(+2.6)	▲0.8	+0.5	+0.7	▲1.7	▲1.5	+0.3	46.9	
05/02	+0.5	(+4.7)	+0.1	(+2.6)	+1.9	+0.6	+0.5	▲0.7	▲2.1	+0.1	48.1	
05/03	+0.8	(+5.0)	+0.1	(+2.6)	+3.0	+0.9	+0.4	+4.7	▲0.5	+0.3	54.6	
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+2.1	+0.7	+0.1	+2.7	+2.2	+0.4	53.0	
05/05	▲0.2	(+3.6)	+0.2	(+2.8)	▲1.6	▲0.3	▲0.3	▲3.1	▲2.9	▲0.2	50.0	
05/06	+0.1	(+3.7)	▲0.1	(+2.4)	+1.5	+0.2	▲0.1	▲1.7	▲3.6	▲0.2	56.4	
05/07	+0.8	(+4.7)	+0.3	(+2.8)	+3.9	+1.0	+0.1	+5.1	+0.6	▲0.2	58.9	
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	▲0.1	+3.5	+4.6	+0.1	65.0	
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9	65.5	
05/10	+0.8	(+5.9)	▲0.3	(+1.9)	+4.6	+2.6	+1.1	+5.4	▲1.9	+0.8	62.3	
05/11	▲0.4	(+4.4)	+0.1	(+1.7)	▲2.9	▲1.0	+0.6	▲1.5	+3.8	+0.1	58.2	
05/12	+0.6	(+5.4)	+0.1	(+1.7)	+2.0	+0.1	+0.3	▲2.3	+0.5	+0.0	59.4	
06/01	+0.3	(+5.7)	+0.4	(+1.5)	+0.0	+1.2	+1.0	▲0.5	▲0.1	+0.3	65.3	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアが前月比+0.4%と市場予想を上回った

06年1月の生産者物価(最終財)は、コアの上昇によって前月比+0.3%と市場予想の同+0.2%を上回った。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、乗用車が前月比+1.1%と4ヵ月ぶりにプラスに転じたことから同+0.4%と市場予想の同+0.2%を上回った。ただし、価格競争の激しい乗用車価格の上昇は一時的な動きとみられ、持続的に物価を押し上げる可能性は低い。

また、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で見ると、中間財(コア)が+9.1%(12月同+9.2%)と高い伸びが続き、遅れて影響を受ける最終財(コア)は同+0.9%(同+0.0%)と上昇に転じたが低い伸びにとどまっている。このように、生産者段階では川上の物価上昇圧力が強まっているものの、競争圧力の激化や生産性の向上等によって川下への波及は限定的なものにとどまっている。

資本財、消費財コアともに伸びが加速

最終財のカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜の鈍化やフルーツ、鶏肉、七面鳥の下落によって、食品価格は前月比+0.2%(12月同+0.8%)と鈍化した。エネルギーは前月比0.0%(12月同+2.0%)と横ばいとなった。家庭用電力が同+3.0%(同+0.2%)、天然ガスが同+0.8%(同▲1.8%)と上昇に転じたもののヒーティングオイルが同▲1.0%(同+3.5%)、ガソリンが同▲3.5%(同+7.2%)と下落した。

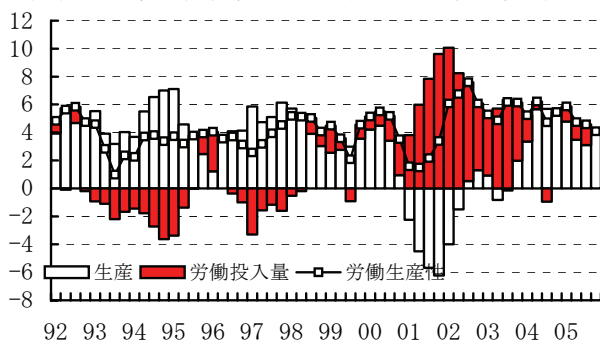
消費財(エネルギー・食料品を除く)は前月比+0.4%(同+0.2%)とプラス幅が拡大した。消費財(エネルギー・食料品を除く)では、乗用車価格が同+1.1%と4ヵ月ぶりに上昇し、宝石等の上昇ペースが加速した。他方、資本財は前月比+0.3%(同+0.1%)と加速した。資本財では、コンピューターの下落が持続しているものの、需要の好調な建設機械、鉱業機械、軽トラックの価格が上昇した。

生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

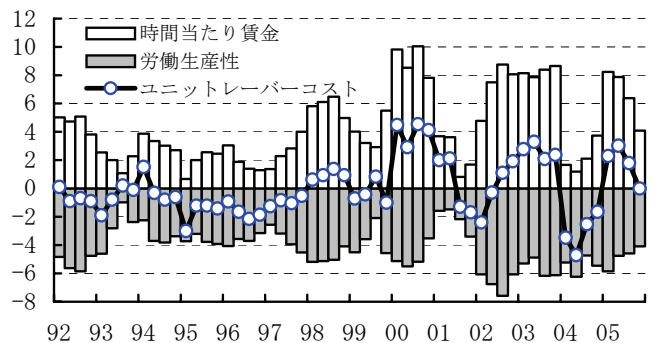
今後に関しては、①川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で1月に+20.0%（12月+26.3%）とプラス幅が縮小したこと、②中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が低下していることから川上からのインフレ圧力は目先弱まると見込まれる。しかし、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景に商品価格、エネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く可能性がある。このため、原材料価格（コア）、中間財コアでは上昇圧力が強まり、インフレ圧力は再び強まると見込まれる。

その場合でも、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇にとどまろう。

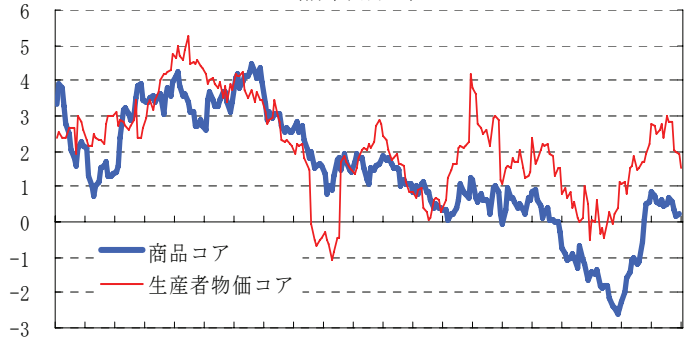
(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



(%) 製造業U L Cの要因分解(前年比)

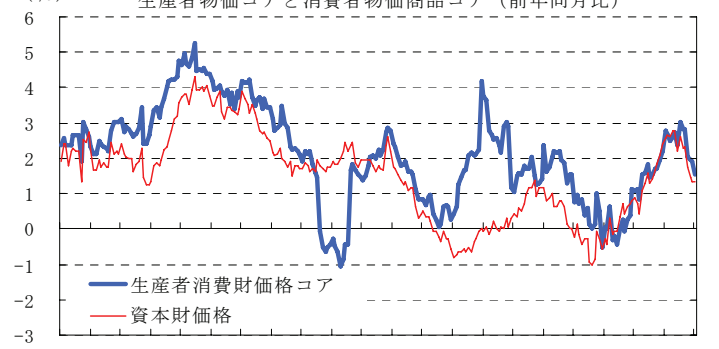


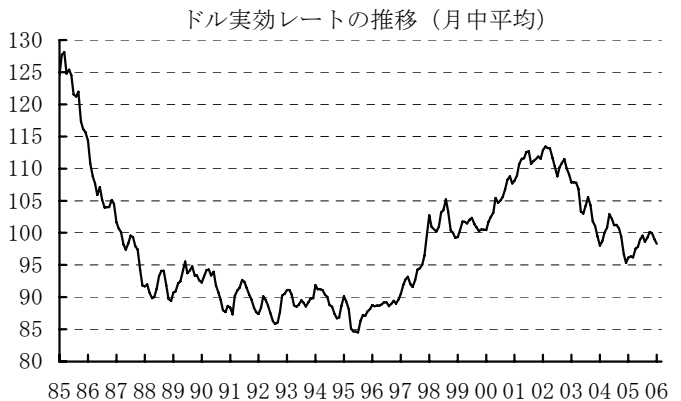
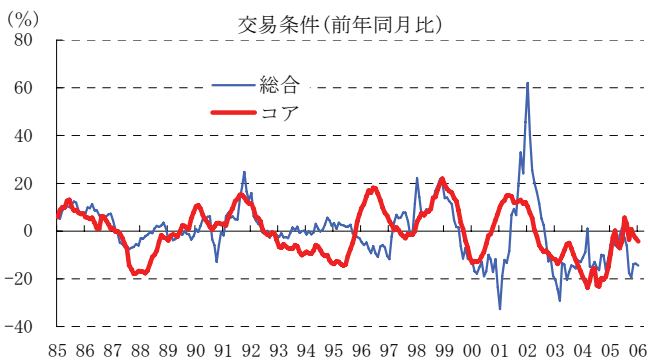
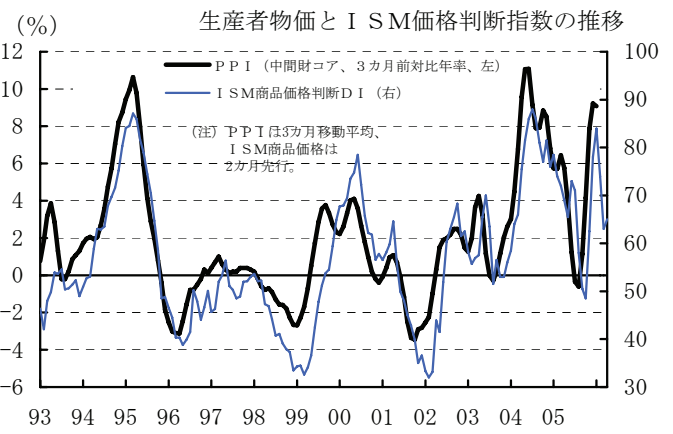
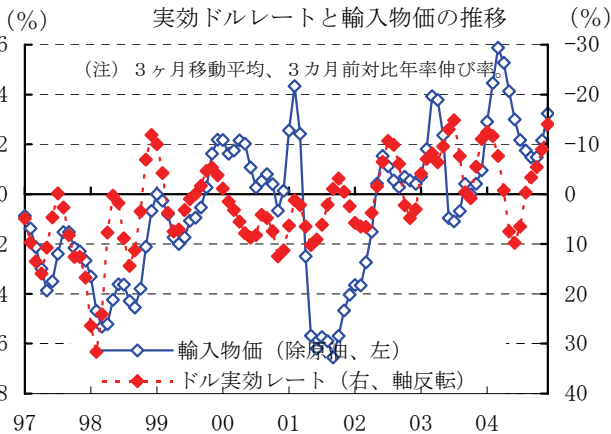
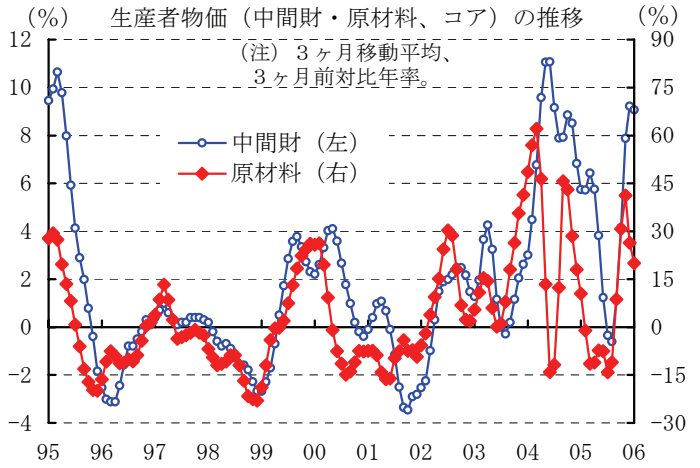
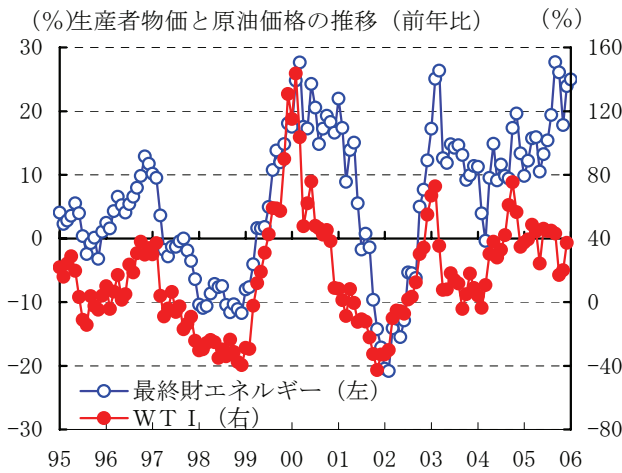
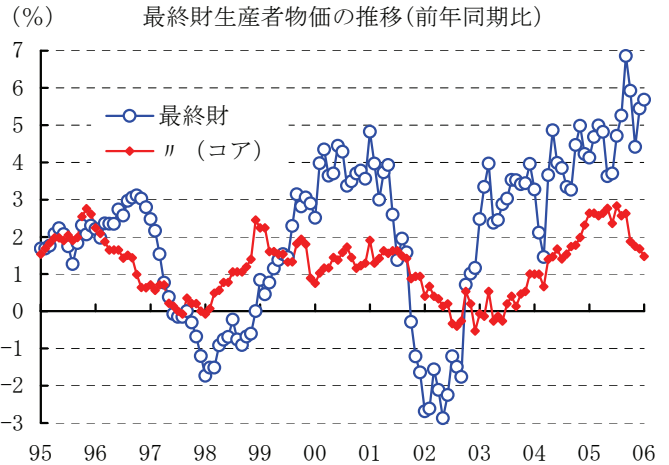
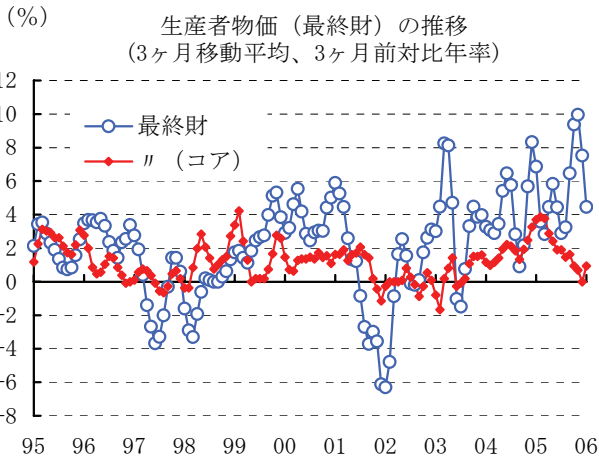
(%) 生産者消費財物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)



(出所) 米労働省

(%) 生産者物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。